

「未来の水戸」描いて

田村工務店 囲いに学生が作品

田村工務店（水戸市、田村貴也代表取締役）は24日、「泉町ロードギャラリー」作品展示を始めた。「（仮称）テツ・アートプラザ」（水戸市泉町3）の建設現場の囲いパネルに、地元の小学生や中学・高校生美術部による作品を展示するもの。テーマは「未来の水戸」「未来の街」。12月未まで生徒たちの思い描いた色どりの芸術作品の展示を行う。

開催に当たり田村代表取締役は「地元である水戸を活気のある街に戻したい」というアダストリアの福田三千男会長の意思に賛同し、社会貢献の一環として企画させていた。芸術に触れつつ、『まちづくり』と『芸術』の可能性を、芸術文化の身近な体験により発見する機会になれば」とコメントを寄せた。

田村工務店は今年で創業110年を迎える。「今後

も地域のリーディングカンパニーとして、お客さまへのソリューションを提供することはもちろん、地域社会への貢献も念頭に事業を

押し進めていく」と、力強く未来へ向けて意気込みを語った。作品展示の初日（24日）には、制作に携わった常盤



水戸への思いを込め、記念写真

大学高等学校美術部2年生の前島未羽さん、磯山和花さん、錦咲良さんが見学に駆け付けた。3人も加わって制作した作品は、泉町の風景写真をコラージュし、上からアクリル絵の具を塗った、書を基調としたさわやかな作品となっている。

前島さんは「空は広くて未来に伸びていくイメージがあったから、空を連想させる青を選んだ。昔ながらのレトロな街並みが残る水戸を魅力的に思う。未来の水戸も、最新鋭の建物が増えるばかりでなく、ほんの少し懐かしさを感じる風景のままでもいい」と水戸への思いを話した。

同様に、磯山さんと錦さんも飾られた色どりの作品に目を輝かせ、「普段通る道に自分たちの作品があることはとてもうれしいし、皆さんに見てもらえるのは光栄」と喜びを語った。

作品の制作時間は1カ月程度で、コラージュに使用した泉町の風景写真は部員12人、一人一人が通学時に撮影し持ち寄ったものを使用している。

2024年 6月26日(水) 日本工業経済新聞